

京都 クオリアフォーラム 会報

複数の企業・大学による
共創・人材育成

Vol. 2
2023年秋号

京都クオリアフォーラムは、
京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して
「知の共鳴場」を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、
社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献し、世界をリードする
人材を輩出することを目的として設立されました。



京都クオリアフォーラム

KQFの「Q」は京都クオリアフォーラムが目指す「知の共鳴場」というコンセプトから、水面に立った波紋が干渉する様子を表し、京紫と鴨川の流れの水色を取り入れました。

INDEX

会長あいさつ

株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚

理事あいさつ

株式会社村田製作所 代表取締役会長 村田 恒夫
京都工芸繊維大学 学長 森迫 清

活動トピックス

- テーマ探索グループ活動報告
- 人材育成グループ活動報告

会合・イベント

2023年6月5日 2023年度定時総会



会長あいさつ

京都クオリアフォーラム 会長 **堀場 厚**

株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO

京都の7企業の経営者と7大学の学長が集い、2018年から始まった京都クオリア会議は、2年後の2020年に「京都クオリアフォーラム」として実務部隊を巻き込んだ体制に再編成されて活動を開始しました。

企業と大学のトップが出席し、さまざまな視点で本音を語り合う場であった京都クオリア会議をもとに生まれた京都クオリアフォーラムは、「日本の閉塞感を打破するようなイノベーションを京都から興す」という高い目標を掲げて活動しています。発足から「テーマ探索」と「人材育成」という2つのアプローチで事業を行い、2年を経て人材育成の分野ではいくつか成果が見え始めています。懸案であった博士課程学生支援においては、企業と大学双方からアイデアを出し合い、意味深い交流が始まっていますので、これからさらに大きな成果が生まれ、花開くことでしょう。

共同研究テーマを探索する活動では苦労するところも多いようですが、3つの部会「健康・医療・介護」「エネルギー・モビリティ」「スマート農業」を設立し、焦点を定めて検討を進めていますので、遠からず共同研究するにふさわしいテーマが見つかることを期待しています。

京都クオリアフォーラムの2023年度の事業はすでに始まっていますが、ここに会報の第2号をお届けしますのでご一読いただき、我々の活動をご理解、ご支援賜れば幸いです。



理事あいさつ

企業代表理事 **村田 恒夫**

株式会社村田製作所 代表取締役会長

産学連携はさまざまな地域で行われておりますが、「上手く進んでいる」「継続的に成果を出している」といった成功の話よりも、「悩みを抱えながら細々とやっている」という話のほうが多く聞かれます。

そんな中、クオリアフォーラムでは6大学、7企業（現在は7大学、8企業）が参加し、互いにいろいろな活動内容を開示しながら協力する体制、やりたいテーマを大学対企業の1対1だけでなく、一緒にやれそうな仲間（大学・企業）を集めて課題を議論・解決する体制ができつつあります。

また、どこの業界においても人材不足が深刻ですが、「企業のニーズと学生の価値観」と「大学のアカデミアとしてのありたい姿」との間にはズレが生じているようにも思われます。本フォーラムに参加することで、互いの想いをすり合わせ、世界で活躍できる優秀な人材を育成・採用できる仕組みを産業界も積極的に参画して作る必要性を理解することができました。こうしたアカデミアと企業の相互理解の深化が、世界レベルのイノベーションを生む素地を作りだしていくでしょう。

京都クオリアフォーラムの活動がさらに広がりを持って展開され、日本の新しい産学連携、さらに産公学連携のひな型になるよう、活動を支援していく所存です。



理事あいさつ

アカデミア代表理事 **森迫 清貴**

京都工芸繊維大学 学長

大袈裟かも知れませんが、現在、世界は産業革命以来の変革期にあると思います。少なくとも日本は明治維新から敗戦を経て欧米先進国へ追いつき並び追い越す、という目標で歩んできた社会価値観が揺らぎ、懐疑的になっています。

京都クオリアフォーラムのメンバーは、千年を超える歴史文化を踏まえ、今あらためて、世界、日本、京都に生きる人々にとって「よきもの」「よきこと」に繋がる研究、技術開発、人材育成を通じて貢献しようと集まっています。

活動はまだ端緒についたばかりで、成果が見えるには少し時間がかかるでしょうが、人類の歴史において、後からみれば、分岐点となっているような活動として育てていきたいものです。

■ テーマ探索グループ活動報告

テーマ探索グループ 主査 西方 健太郎 ((株) 堀場アドバンステクノ 代表取締役社長)

本グループは、複数の会員企業と大学が共同で解決策を研究できるような課題を見つけようとしています。現時点ではこれというテーマを特定することはできていませんが、焦点をあてるべき分野は絞り込みが進んできたようです。

一方で、恒例イベントとなった「お互いを知ろうの会」でもさらに突っ込んだ議論が進むようになってきました。

人材育成事業のイベント「博士キャリアメッセ」で博士課程学生の発表した研究内容にも面白いものが多く、それらとの連携も視野に入れた議論を部会においても展開して、早く共同研究がスタートできるように進めています。

各部会の活動概略

1. 健康・医療・介護部会

健康・医療・介護は幅広い分野ですが、「歩行」と「子供の健康」に絞ってテーマを探索することにしました。子供の健康では「子供の睡眠」に、歩行では「歩行の計測（分析）」を切り口とすることとして、何れも会員大学や企業の強みを生かして、「先ず測ってみよう」という姿勢で活動を進めていきます。



2. スマート農業部会

会員の大学や企業が共同研究できる分野を特定するために、農業に関して先進的な試みを行っている施設の見学会を企画します。テーマ探索にあたっては、狭い意味での農業に拘らず視野を広げて、「林業」や「竹林の再活用」という分野にも目を向けていきます。



3. エネルギー・モビリティ部会

モビリティでは、既の実証試験の段階まで進んでいる団体や施設への見学会やヒアリングを予定しています。エネルギー分野にも焦点をあてることにしましたが、既に、省エネなどの様々なエネルギー関連テーマに取り組む活動は多く見られるので新しいテーマを見つけるには発想の転換が必要です。エネルギーとしての水利用、京都の暑さ・寒さの活用など、ユニークな視点でテーマを探索するよう議論を進めています。

■ 人材育成グループ活動報告

人材育成グループ 主査 吉本 昌広 (京都工芸繊維大学 理事・副学長)

本グループは、アカデミアと産業界の枠を超えて、社会課題の設定や解決、さらにはイノベーションを起こして未来を切り開く人材の育成につながる交流の場を提供しています。産業界とアカデミアが良好な関係を築いてきた京都の伝統を生かし、現在、「博士課程学生キャリア支援」、「企業における学び直し・リカレント教育」、に加えて、「人材に関わるテーマを本音で語れる場」の3つの事業を進めています。

産業界で活躍する人材について本音で語る会

「人材に関わるテーマを本音で語れる場」として、2021年10月に大学から社会の入口となる就活に関して産学で議論しました。翌年の2022年3月には、学生も交えた車座オンライン交流を5回開催し、さまざまな産学共通の課題やコロナ禍前後での就活の現状をあぶりだしました。



2023年5月16日には、社会に出た後に「視点」を移し、産学における人材に関して、更に相互理解を深めるための対面交流の場を設けました。京都工芸繊維大学60年記念館で、産業界で活躍する優秀な人材のイメージをもとに、さまざまな立場での課題や取り組みを披露した後、活発な意見交換をしました。参加者が育成のヒントとして活かせるような話題もあり、熱気のある充実した場となりました。

博士キャリアメッセ KYOTO

高度専門人材である博士後期課程の学生がイキイキと活躍できる社会であることを念頭に、京都・奈良で盛り上げる第一歩として2021年からスタート。今年は、7月10日に立命館大学朱雀キャンパスとオンラインのハイブリッド開催で、文系・理系の枠にとらわれず、社会のさまざまな分野の最前線で活躍している博士取得者10名が貴重な経験を語りました。

学生のキャリアモデルの一部として参考にもなりました。インターンシップ紹介後に、対面で約80名の企業人と学生がグループ別で交流会を実施。社会の先輩との相互交流では90%以上の学生が「満足」という結果が出ました。例年同様、150名前後の参加者(大学院生100名以上)となり、「企業側も他社の取り組み事例は勉強になる」「博士後期課程に進学するか悩んでいるため、学生と企業の双方の考えを聞くことができ大変参考になった」「学生と社会人の交流会では非常に有意義な時間を過ごせた」「さまざまな分野の方々の話を聞いてよい機会」などの声がありました。

第2部となる博士後期課程学生のショートプレゼンは、11月8日(英語)・9日(日本語)の2日間を予定しております。

会合・イベント

京都クオリアフォーラム 2023 年度定時総会

2023年6月5日(月)16時より、京都駅近くのホテル「THE THOUSAND KYOTO」において、京都クオリアフォーラムの定時総会が開催されました。

本会は、その生い立ちが京都の企業と大学のトップが集まり闊達に忌憚ない意見を交わす会合であり、定時総会も議事内容について次々に意見が述べられる活発な会となるのが慣例です。今年も会議の大半は各代表者からの発言で費やされ、議事録をまとめる担当者泣かせとなりました。



KQF 総会写真

以下、テーマ探索グループの議論の一端をご紹介します。

スマート農業部会から「京都の農業」について検討したことが報告されると、ある会員企業からは「宮崎県と連携してバイオスティミュラントを開発して成果を得ているので、農業振興に貢献できるのでは？」との紹介があれば、別の会員大学からは「他大学と共同で同じテーマの研究をやっており、現場に展開できるレベルの成果も出ているのでこれも参考にならないか」との提案が出されました。

健康・医療・介護部会からの「子供の健康に焦点を当てる」との報告では「委員に子育て世代が多いので盛り上がっている」と紹介されると、ある代表者からは「孫を育てている世代もあることも忘れずに進めて欲しい」との発言があり、笑いを誘いました。もうひとつのテーマとして「歩行支援」が紹介された際も、文科省のプロジェクトで歩行支援ロボットが開発されたことや、学会でGPSや視覚センサーを使った視覚障がい者支援システムの開発が紹介されたことなど、多くの先行事例が今後の事業推進の参考となりました。

また、学長の多くからは、企業が求める博士人材の姿について「企業のニーズをフィードバックしてほしい」という強い要望を示されたことも特筆に値します。人材育成事業に対する期待が大きいことが強く感じられます。

幹事一同として、今後もこのような会員代表者の活発な意見交換のできる総会を目指し、努力する所存です。

京都クオリアフォーラム理事会

アカデミア: 植木 朝子 (同志社大学学長)、黒坂 光 (京都産業大学学長)、塩崎 一裕 (奈良先端科学技術大学院大学学長)、塚本 康浩 (京都府立大学学長)、仲谷 善雄 (立命館大学学長)、森迫 清貴 (京都工芸繊維大学学長)、夜久 均 (京都府立医科大学学長)
経済界: 足立 正之 (㈱堀場製作所代表取締役社長)、上田 輝久 (㈱島津製作所代表取締役会長)、垣内 永次 (㈱ SCREEN ホールディングス 取締役会長)、鈴木 順也 (NISSHA ㈱代表取締役社長 兼 最高経営責任者)、樋口 章憲 (三洋化成工業㈱代表取締役社長)、堀場 厚 (㈱堀場製作所代表取締役会長 兼 グループ CEO)、村田 恒夫 (㈱村田製作所代表取締役会長)、村田 大介 (村田機械㈱代表取締役社長)、山口 悟郎 (京セラ㈱代表取締役会長)



〒600-8813
 京都市下京区中堂寺南町134
 京都リサーチパーク
 ASTEM 棟 305 号室
<https://kyoto-qualia-forum.jp/>